

令和元年5月8日

印教研書写研究部総会要項

於 成田ガーデンホテル

- 1 開会の言葉
- 2 研究部長挨拶
- 3 議長選出及び書記の任命
議長
書記
- 4 報告事項
 - (1) 平成30年度事業報告について
 - (2) 平成30年度決算報告について
 - (3) 平成30年度会計監査報告について
- 5 協議事項
 - (1) 平成30年度事業報告及び決算報告の承認について
 - (2) 令和元（平成31）年度研究主題について
 - (3) 令和元（平成31）年度事業計画について
 - ・書写研修会について
 - ・印旛地区教育研究集会について
 - ・第69回競書大会について
 - (4) 令和元（平成31）年度予算について
 - (5) 令和元（平成31）年度研究部役員について
 - (6) その他
- 6 新旧役員挨拶
- 7 連絡事項
- 8 閉会の言葉

要項資料綴じ込み順

- 1 平成30年度事業報告
- 2 平成30年度決算報告
- 3 平成30年度会計監査報告
- 4 令和元（平成31）年度研究主題
- 5 令和元（平成31）年度事業計画
- 6 書写研修会について
- 7 印旛教育研究会研究員集会について
- 8 第69回競書大会について
- 9 令和元（平成31）年度予算

平成30年度 事業報告

書写研究部

日程	計画	内容	方法	成果	備考
月日	事業名		会場・発表者	参加数	指導者
5. 8	研究部総会	年間計画の 確認	成田ガーデンホテル	36	
7. 24	席書大会		印旛教育会館	50	
7. 24	第1回役員会議	競書大会計画 など	印旛教育会館	25	
8. 1	書写研修会	工場・工房 見学	東京ペンシルラボ 宝研堂	25	
8. 28	印教研集会	1部会の提案 実技研修	四街道市文化センター	40	山田良子先生 内田和子先生
11. 13	第68回競書大会	作品の審査 評価の研修	印旛教育会館	120	片山晟先生 他
1. 10	県書き初め展 搬入・審査		印旛教育会館	50	
2. 6	第2回役員会議	来年度の 事業計画など	印旛教育会館	25	

平成30年度 書写研究部 決算報告

1. 収支総額

収入総額	支出総額	差引残高
229,000	229,000	0

2. 収入内訳

項目	予算	決算額	増減	備考
研究部費	229,000	229,000	0	

3. 支出内訳

項目	予算額	決算額	増減額	備考
謝金	10,000	0	10,000	
旅費	5,000	0	5,000	
資料費	69,000	105,258	Δ36,258	事務用品 封筒 コピー用紙 印刷用マスター 等
通信費	45,000	3,042	41,958	
その他	100,000	120,700	Δ20,700	部会援助費 教研援助費 会場費等
合計	229,000	229,000	0	

会計監査報告



印旛地区教育研究会書写研究部の会計監査を終了いたしましたので、下記の通り報告いたします。

記

- 1 諸表簿の記入は明確で、証拠書類の整理は完全に行われている。
- 2 支出は各項目とも妥当と認める。

平成31年 2月 6日

会計監査

鬼田 みゆき 
星 若子 

令和元年5月8日

令和元年度（平成31年度）研究主題について

研究主題

生きる力を育む書写教育のありかた
—基礎基本の習得と日常の書写力の向上をめざして—

○主題設定の理由

学習指導要領では、国語科の目標を次のように示している。

「国語を適切に表現し正確に理解する能力を育成し、伝え合う力を高めるとともに思考力や想像力及び言語感覚を養い、国語に対する関心を深め国語を尊重する態度を育てる。」

書写について、小・中学校ともに国語科の「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」の（2）に位置づけられている。そのねらいは、国語の基礎能力として、文字を正確に理解し表現する能力を養うとともに、文字に対する関心を深め、文字感覚を養い、文字を尊重する態度を育てることである。書写指導のねらいは、日常生活に役立つように文字による情報の伝達、記録の働きを十分発揮させるための書写力を育成することである。

具体的には、小学校では文字を書く基礎になる姿勢、鉛筆や筆の持ち方、点画や一文字の書き方から始め、目的に応じた書き方へと指導し、日常生活や学習に生かせる書写の能力を育成することとしている。今回の改定で新たに加わったのは「筆圧」と「穂先の動き」、「点画のつながり」であり、これらを意識して書くことにより文字を正しく書く能力が養われることにつながるからである。

さらに、中学書写では、楷書や行書の特徴をふまえ、書体を選択して書くことができるようになることをもめざしている。

『生きる力』の育成のためにも『伝統と文化の尊重』が強調されていることは周知の通りである。日本の伝統と文化の原点である『文字』を正しく書く書写の基礎・基本を身につけることは言うまでもない。現代社会の状況を考えた時、文字を書く機会は非常に減ってきてはいる。しかし、書写の授業のみならず各教科が連携を取り合って、文字を書くことを楽しめるような環境を作っていくのも学校教育の大切な役割だと考える。さらに自分の課題をしっかりとらえて主体的に学び、他者との話し合い活動を取り入れ、自己評価・相互評価をして振り返り、新たな課題を見いだせるような活動が必要であると考え。そこから児童生徒の文字に対する関心を深め、文字感覚を養い、文字に対する意識の向上を図っていくことは、書写力の日常化につながり、さらに日本の文字文化を継承していく上でも重要であると考え。そこで、これらから、基礎・基本の習得と日常の書写力の向上が『生きる力』を育むことにつながると考え、本主題を設定した。

令和元年度 事業計画 (案)

書写研究部

日程	計画	内容	方法	成果	備考
月日	事業名		会場・発表者	参加数	指導者
5. 8 (水)	研究部総会		成田ガーデンホテル		
7. 26 (金)	席書大会		印旛教育会館		
7. 26 (金)	第1回役員会議		印旛教育会館		
7. 31 (水)	書写研修会		書道博物館		
8. 27 (火)	印教研集会	2部会提案 実技研修	和田ふるさと館		
11. 13 (水)	第69回競書大会		印旛教育会館		
1. 10 (金)	県書き初め展 搬入・審査		印旛教育会館		
2. 7 (金)	第2回役員会議		印旛教育会館		

各部会行事計画

1部会	書写実技研修会	11. 19 (火)
	小中書初展審査会	1. 21 (火)
2部会	部会書初展・展示会	1. 15 (水)
	部会書初展・作品搬出	1. 28 (火)
3部会	部会書き初め評価研修会	1. 15 (水)
	書き初め展示・研究部会議	1. 21 (火) 未定
4部会	部会書初展搬入審査	1. 15 (水)
	書き初め展展示	1. 21 (火)
	書き初め展搬出	1. 28 (火)
5部会	書写主任会	5. 14 (火)
	書写授業研修会	6. 25 (火)
	書写実技研修会	11. 6 (水)
	書き初め審査会	1. 14 (火)

書写研修会について

- 1 目 的 優れた書作品や書写指導に関連する展示品を鑑賞し、書写指導への理解を深め、今後の書写指導に生かす。
- 2 日 時 令和元年7月31日(水) 9:25~15:30
(現地集合 9:30)
- 3 見学場所 <午前の部>
書道博物館
所在地：東京都台東区根岸2丁目10番4号
交 通：JR鶯谷駅「北口」より徒歩5分
入館料：500円(20名以上300円)
- <午後の部>
相田みつを美術館
所在地：東京都千代田区丸の内3-5-1
東京国際フォーラム地下1階
交 通：JR有楽町駅「国際フォーラム口」より徒歩3分
JR東京駅「丸の内南口」より徒歩5分
入館料：800円(20名以上300円)
- 4 内 容 <午前の部>
企画展「漢字のなりたちー古代文字の世界ー」
- <午後の部>
第74回企画展 生誕95周年記念 特別企画展
「一生勉強 一生青春」(仮)

令和元年5月8日

印旛教育研究会研究員集会について

1 日時 令和元年8月27日(火)

2 会場 和田ふるさと館 (佐倉市)

3 提案者 2部会

4 当日の日程

・受付 9:00～ 9:30
・開会行事 9:30～ 9:45
・提案 9:45
研究協議 ～
講師助言及び講話 12:00
講師 未定

先生

・昼食 12:00～ 13:00
・実技研修 13:30～ 15:50
内容 水書筆の活用について
講師 未定
・閉会行事 16:00～16:15

令和元年5月8日

平成31年度 第69回競書大会について (案)

- 1 大会名 第69回印旛地区競書大会
- 2 期日 令和元年11月13日(水)
- 3 場所 印旛教育会館
- 4 参加資格 印旛地区内小・中・特別支援学校在籍児童生徒
※特別支援学校は高等部も含む
- 5 出品要項 (1) 課題 教科書内容より
(2) 作品処理
学年全体の参加者数の上位2割について、赤鉛筆で
作品右下に○印をつける。
- 6 参加費 各部門1人1点 80円
- 7 表彰 小中各部門
特別賞(県知事賞～顧問賞) 7点(計28点)
奨励賞 各学年小学校6点・中学校2点(計72点)
特選・準特選・金賞・銀賞・銅賞
- 8 作品展示 実施しない。
- 9 その他 ○「部会と学校名」でゴム印を作成し、29年度配付済み。
(1校につき1つ)
○合併等に伴い、校名が変更になった学校(本埜小)には、
印を作成して配付する。

第68回競書大会について

○申し込みの会計処理は、会計と競書会担当が集まり作業したことで、スムーズに行うことができた。

- 締め切り後の人数変更が多かった。担任・書写担当のミスによる申込後の追加が多い。
- 校内申込期限に間に合わず、個人参加での申し込みもあった。
- 参加していないのに、行方不明作品となったケースがあった。
→名簿を作り出品前に照らし合わせる、漏れがないかを確認してから申し込むなどの注意喚起を要項に載せる。

○駐車場係は、役員以外の方にもご協力いただき、対応することができた。

○2割選出が早く終わったので、余裕を持って進めることができた。

○2階に作品返却だったことで、作業がスムーズに進んだ。

→基本は1Fを借りられるか確認する。

- 4～6年硬筆の校名印を枠外中央下に押すケースがみられた。

→要項の作品処理欄に注意書きを付ける。新しい課題になった時に位置の検討をする。

- 2部会の参加人数が少なく、作業がなかなか進まない状況だった。

審査・作品処理のミスも多かった。

→ほかの部会と合わせて審査を進めるなどの対策が必要。

→部会の大きな行事と重ならないように調整してもらう。

→各部会のアドバイザーとして、二次審査員の先生（数名）に一次審査から入っていただく。

→上位2割を選出した後、審査の見方について全体で確認する(小学校)。

→参加点数の多い学校、学級数の多い学校には審査に参加してもらえるように依頼する。

- 同じ部門で同一校から2名の受賞者が出てしまった。

→選んですぐに作品処理に回すのではなく、最終確認をしてから処理をする。

候補作品は、最終確認を終えてから作品処理にまわす。

ダブルチェックを行う。

- 作品の返却ミスが多く、その問い合わせが12月まで続いた。

1度目の作品確認以降に行方不明の連絡を受けた学校の作品が見つからなかった。

→確実に該当校の袋に入れるよう、指示していく。

作品返却時に、すぐ作品を確認するよう声掛けや文書を付ける。

- 搬出に関する問い合わせが多い。

→返却は、審査した者が自分の学校分を持ち帰る。頼まれていない分は持ち帰らない。

→わかりにくい場所には作品を置かない。

○観覧者数を調査した。45名。受賞者（家族）の観覧は受賞者数の半数。

- 裏打ち代の高騰。観覧者数が少ない。作業負担が大きい。

→平成30年度で終了としたい。

平成 3 / 年度 予算

書写 研究部

謝金	旅費	資料	通信運搬	その他	合計
10,000 円	5,000 円	69,000 円	45,000 円	100,000 円	229,000 円
(内訳) 講師謝礼	(内訳) 交通費	(内訳) 印刷用紙 インク 研修図書 半紙 研修資料費	(内訳) 郵便切手 郵便はがき 郵送代	(内訳) 部会援助費 教研援助費 会場費 会議費	